



第1700回 2020年9月24日（木）《週報》

秦野名水ロータリークラブ
秦野商工会議所 12:30

1. 点 鐘
2. 合 唱 「それでこそロータリー」、四つのテスト
3. お客様の紹介

・2010-11 年度ガバナー ゴトウサダキ 後藤定毅様（大和中RC）

4. 会長の時間

- 7・8・9月と3か月になりますが、“会長の時間”と言ってもなかなか自分の気持ちを話すことは難しいです。
- 最近のコロナの問題で、ソーシャルディスタンス・オンライン・デジタル化という言葉が飛び交っています。ロータリーでもオンラインの例会があります、この第7グループでも1グループこのオンライン例会を実施しているところがあります。私的にはちょっと違和感がありますが、それはそれでそのクラブの特色という事だと思います。
- また最近では地区からのアンケートが多くなってきております。例会はどのような形式で行っているか、奉仕活動はどうなっているか、増強はどう進めているか等たびたび来ています。地区でも急激な変化にこの先どうしていくのか図りかねているのではなかろうかと思います。
私もこの半年の間に、ソーシャルディスタンス・デジタル化というような大きな変化に追いつかないといえますか、もう少し興味を示す・関心を持たなければいけないのですが、なかなかそこまではいっておりません。特に人と人との距離をどのようにとるか、あるいは自分の気持ちを相手にどのように伝えたらよいのか、今までは面と向かって話しをしたり、電話で話したりしていたのですが、お互いに顔を見合わせてお話しすればその人の気持ちが顔色なり、態度なりに表れてよくわかるのですが、距離を置いての気持ちの伝え方がなかなか難しいと思っています。
- 最後に「酔っていた君の言葉の酔い加減はかりかねつつ電話をまつも」これは俵万智さんの歌です。酔っていて話した言葉でさえも、なかなか気持ちが図りかねる。離れての気持ちの伝え方というのも酔い加減以上になかなかわかりにくいのではないかというように私自身は思いましたので、この歌を取り上げました。
- また、今年のIMはオンラインで行うと伺っています。このコロナも3～5年も続くわけではないので、ロータリーというものはこうして皆さんの顔を見ながらいろいろ話しをする・様子を聞くという所謂“親睦”が大事だと思っています。なかなか今の流れにはついていけないということですが、それでも何とか前向きに行かなければいけないのかなと思っています。

5. 幹事報告

【ガバナー事務所より】

- ①インドからの緊急国際支援要請に対するご協力をお願い

【受付文書】

- ①公益財団法人ボーイスカウト連盟より

青少年育成のためのボーイスカウト運動へのご支援御礼と今後のお願いについて

【例会変更】

《秦野》

- ・10月20日（火）→休会
- ・10月27日（火）→休会

《秦野中》

- ・10月9日（金）→休会
- ・10月30日（金）→休会

【本日の配布物】

- ・第1700回例会次第
- ・第1699回例会週報
- ・後藤定毅様経歴書

6. 記念日

- ・会社創業記念日
- ・入会記念日 原恵さん（9/29）
- ・御結婚記念日
- ・御誕生記念日（会員）
（配偶者）



7. スマイル報告

- 大和中央RC（2010－11年度ガバナー） 後藤定毅様「しばらくぶりに伺いました。そうしましたら1700回記念例会とのこと、おめでとうございます。お祝いを込めてスマイル致します。」
- 神崎達朗さん「後藤パストガバナー、本日ありがとうございます。卓話楽しみにしています。」
- 大屋富茂さん「本日は1700回記念例会です。ご多忙の中後藤定毅PGに卓話をお願い致しました。素晴らしい卓話になると存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。」
- 鈴木和夫さん「後藤パストガバナー、お越し頂きましてありがとうございます。本日の卓話を楽しみにしております。」
- 古谷スミ子さん「ご多忙の中後藤パストガバナーにお出で頂きありがとうございます。卓話楽しみにしております。」
- 山谷洋子さん「後藤定毅パストガバナーようこそお出で下さいました。本日の卓話楽しみにしております。」
- 桐山晃忠さん「スマイルは幸福の1ページだと思う」
- 北村まり子さん「昨日、人間の癌を探知するガン探知犬の検査をしてきました。」
- 原郁夫さん「後藤パストガバナーようこそ名水へ。今回の卓話楽しみにしております。また1700回例会を祝って！」
- 原恵美子さん「後藤PGようこそ秦野名水RCにお越し下さいました。新会員の時、一度セミナーで講演をお聞きしたことがございました。今回が二度目です。本日はどのようなお話しを下さるのか楽しみにしております。また入会記念のお祝いありがとうございます。」
- 東島礼美さん「後藤PGようこそいらっしゃいました。今日はお話し楽しみにしております。」
- 淵脇美代子さん「1700回記念例会楽しみにしています。よろしくお願い致します。」
- 諸星道治さん「後藤定毅様、今日の卓話楽しみにしていました。よろしくお願い致します。」
- 諸星利男さん「スマイルします。」
- 矢端雅子さん「2010－11年度ガバナー後藤様の卓話楽しみに参りました。本日はよろしくお願いいたします。」

○酒井健一さん「後藤パストガバナー、本日はよろしくお願いいたします。」

合計 66,000 円

8. 出席報告

○会員数 16 名、○出席義務 16 名、○出席数 15 名、○出席率 93.75%

9. 地区委員会報告 特になし

10. 委員会及びその他の報告 特になし

11. 卓話「ロータリーについて（不易流行）」

2010-11 年度ガバナー 後藤定毅様

○神崎会長より後藤パストガバナーのご紹介

後藤様の略歴に関しましては、配布資料をご参照願います。

後藤様に名水 R C にお越し頂いたのは今回で 3 回目になります。1 回目はガバナー公式訪問で来て頂き
2 回目は約 10 年位前に募金の不透明な部分に対して説明依頼をしたところ快くお受け下さり説明にお越し

頂きました。そして 3 回目が 1700 回の記念例会に卓話を依頼したところ快くお受け頂き、今日お迎えすることができました。後藤定毅様よろしくお願い致します。



○今日の演題を、「ロータリーについて（不易流行）」とさせて戴きました。最近の地区リーダーの方々は、「ロータリー本質について」多くを語りません。したがって今日は皆さんと一緒に、「ロータリーの本質」について考えさせて戴きたいと思います。

「不易流行」という言葉をご存じだと思いますが、芭蕉の「俳句の理念」と認識しています。その意味は、新しさを求めて変化していく流行性が、実は俳句の「不易」の本質であり、

「不易と流行」とは根本において結合すべきものと解釈されています。ただ単語的には、「不易」とは永久不変、つまり「ずっと変わらないこと」、そして「流行」とは、「時代とともに変わること」の意味だと思います。したがって「不易と流行」は、一見真っ向から対立するように見えますが、芭蕉は「この二つが一句の中に統一される俳句が理想である」と考えたようであります。

○さて我々が所属するロータリーにおいても近年、大きな変化が押し寄せているように思います。本来「ロータリーの本質」であったはずのものが、時代だから変えなければいけないというように、いろいろなところで混同され、ロータリーそのものが大変変ってしまったように思えてなりません。

私は 16 年規定審議会に地区代表議員として出席しました。その時標準ロータリークラブ定款の例会開催頻度が月二回でも良いように可決され、クラブの判断任せになりました。またその自由度の延長として 19 年規定審議会では、従来のメーク・アップが「同年度内」でも良いことになりました。

さらに RI 定款や標準ロータリークラブ定款など、「一業種一人制の職業分類」の規定もあいまいになりました。したがって、これからは奉仕の意欲があり、良い評判がある人なら、「職業分類」はあまり関係なく、誰でも入会することが可能になりました。ですから従来の「ロータリーの本質」であった、一つは、「出席」に対する考え方、二つには、「一業種一人制」に対する考え方が、丸っきり変わってしまったと言えます。

○それはさておき、ロータリーライフにおける第一歩は、まず毎週例会に出席するところから始まります。ロータリー運動が望んでいる会員像は、毎週欠かさずに

ホームクラブに出席してくるロータリアンの姿だからです。例会出席は、「ホームクラブで仲間との友情を育むこと」を、主眼として始まったわけですが、人は出席すること、そしてその出会いによって人間関係を築き、仲良くなることが出来るわけですから、「出席が友情の証」であることは、今も昔も変わることがないように思います。

要するにロータリーの例会出席は、良質な職業人の出会いを保証し、自覚を高めるための出会いを保証する場ということです。例会を通して自己を磨くことを呼びかけ、自己改善をロータリー運動の根本に考える、それを忘れてはならないようにするため、「例会出席」を最重要視するのではないのでしょうか。

- ロータリーのもう一つの本質は、永年守られてきた「一業種一人制」です。この原則も時代の流れとともに広げられ、先ほども述べましたように19年規定審議会では、とうとう「職業分類制度」そのものが大きく緩められました。これも「ロータリーの本質」を変える極めて残念なものと言わざるを得ないと思います。

- 1905年頃、大都会の過酷で無秩序の自由競争が蔓延る中、人々は孤独感、疎外感や恐怖感に包まれて生活していました。そんな時代、ロータリークラブ設立の発端は、その街の一人の青年の、「もしここで心から何でも相談できる、また語り合える友人がいたらどんなに素晴らしいことだろう」、という真の友情を得ることでした。したがって同業者がいるとお互いに利害関係が生じて、親睦や友情が阻害されると考えて「一業種一人制」が採用されたのだらうと思います。

ですから初期ロータリーの思考は、1906年制定のシカゴロータリークラブの定款第2条「目的」に、「会員事業場の利益の促進、会員同士の親睦」が、はっきり明記されています。「物質的、精神的相互扶助」を最高のモットーとしています。そしてこれに共感賛同した人々によって世界中に、そして日本においても、燎原の火のごとくロータリーが広まって行ったわけであります。

- さらにロータリーが「一業種一人制」を大事だとした理由のもう一つは、ロータリーがロータリーの思想を広めるために、ロータリアンが属する業界に派遣された「大使」だ、という考え方があります。ロータリーの目標は、一週間に一度例会に出席し、職業が違ういろいろな人から学びあい、会員各自が奉仕の哲学を理解し、自己改善を図って自分の事業を成功させ、世のため人のために奉仕する人間を作る、ということに尽きるのではないのでしょうか。そのために、ロータリアンには高い資質が要求されるのは当然であります。

- 1974～75年度のウィリアム・ロビンズRI会長は「ロータリーの精神を奮い起こせ」をテーマに掲げ、「ロータリーは成人教育の最も優れた実験場であり、ロータリーの第一の目的は親睦と奉仕を通して、人を育てることにある。クラブの価値は、そのクラブがいかなる人材を育てたかによって計られる」と言っています。

- 先に述べました16年規定審議会での「月二回例会の選択」と、19年の「職業分類制度の緩和」は、ともにRI理事会の提案によるものでした。この結果でもお分かりのように最近の国際ロータリーは、大きな組織に発展したために、それを維持するための手段、すなわち「会員増強」だけが第一目的となり、そのための会員を増やすには、従来のロータリーの根底にあった理念を自由にして、時代に合わせるといふ名の下に、ロータリーのハードルを下げて行くことにしているのではないかと思えてなりません。そのため逆に却ってロータリーの魅力がどんどん無くなっているように思います。

- 私ごとですが入会当時、例会出席と職業分類は大変厳しく守られていました。だからロータリーに入れたことは大きな喜びでありやっと地域社会の中で一人前に認められた、と大変誇りに感じたことを改めて思い出します。

- ただ本日私が今までお話しした「ロータリーの本質」についての考え方は、国際ロータリーの動向は別にして、クラ



ブの考えでどのようにでも決定できるということでもあります。一般の人たちが入りたいと思うような魅力を持つロータリークラブにするか、そして会員が頑張っ
て続けて行きたいと思うような魅力あるクラブにするか、これからはますますク
ラブ自身が、その姿勢を問われることになるのではないのでしょうか。
拙い卓話になりました。最後に、貴クラブのご発展と、会長幹事はじめ会員皆様
のますますのご健勝ご活躍をお祈りして終わります。



○後藤パストガバナー、貴重なお話しありがとう
ございました。

12. 点 鐘